MONTHLY マ・ア・ブ・バ

龍ケ崎ガールズ・スポーツ・コレクション

流通経大女子学生らが企画、第1回は新体操やラグビーなど6競技

「龍ケ崎ガールズ・スポーツ・コレクション（GSC）」が5月31日、茨城・龍ケ崎市の「たつのこフィールド」で開催された。女子小中学生にスポーツの魅力を知ってもらおうというイベントで、流通経済大の女子学生らが企画。第1回は、新体操やラグビーなど6つのスポーツで行われた。同時開催の「ラグビーフェスタ」「竜KOー舞祭」とともに、地域を盛り上げた。

この企画の発起、記事執筆は流通経大・西機真准教授のゼミ生が担当した。

小中の参加者や保護者らは笑顔

記録的な暑さに見舞われた6月の最終日曜日、会場は女子小中学生たちの歓声に包まれた。2時間のイベントに約70人が参加。用意された6つのブースで、スポーツに触れ、楽しんだ。それぞれ指導は流通経大各運動部の女子学生が担当。

テーマは「頑張ろう！　楽しめ！　女子sports♡」。流通経大が目指している女子スポーツの普及、さらに地域の活性化、それらを一挙に実現させる初めての試みだった。

全日本選手権出場を目指す新体操部はリボン、フープ、ロープ、ボールなどを用意して、子どもたちに新体操を体験してもらった。

関東学生選手権の個人種目とリレーで全国大会出場を目指す女子陸上競技部は、走ることが苦手な子でも楽しめる「投てき種目」をイメージしたボール投げゲームを用意した。

大学で実践的にトレーナーの勉強をしているコンディショニングチームは、運動の基礎となるジグザグ走や跳った所にボールを投げるゲームを行った。

日本一を目指す女子ラグビー部は、五輪種目になった競技を広めるためにボールゲーム、タックル・ラインアウトを行った。関東ディアリーディング選手権でミスのない演技を目指すチアリーディング部は、実際を持ってもらうために簡単なスタンツ（組み体操）を指導した。

誕生したばかりの女子サッカー部は、的当てやコーンドリブルで子どもたちを楽しませた。

参加者は「リボンを回すのが楽しかった」「お姉さんが明るくて楽しかった」などうれしそう。保護者も「学校では出来ないスポーツを楽しめていた」「子どもたちでも女子会やガールズトークという言葉に反応していたので、このようなイベントを増やしてほしい」と笑顔だった。

イベントを企画した有田瑞（流通経大大学院生）は「初めての試みで反省点もあったが、無事に終えることができた。スポーツを通じて大学と地域がつながることができた。GSCを きっかけに、子どもたちが女子スポーツに興味を持ってくれたらうれしい」と話していた。

ガールズ・スポーツ・コレクションを企画した流通経大女子スポーツ部員と参加者

コンディショニング　知ったところにボール投げ

投てき種目のイメージを体験

サッカー　未来のストライカーを目指せ

ラグビー　実践のラインアウトの実演を体験

チアリーディング　スタンツを体験

新体操　初めてのリボン体操を楽しく指導

流通経大に女子サッカー部誕生

流通経大に今春、女子サッカー部が誕生した。大学選手権優勝など近年めざましい成果を残している男子に続いて、女子のサッカーをさらに盛り上げ、発展させていくのが創部の目的。初年度は選手16人、マネジャー3人の計19人で活動している。

指導する村田雅春監督は、16歳でU-19日本代表に選出され、札幌でもプレーした元J1リーガー。「一番苦労したのは選手の勧誘」と話した。

「選手の勧誘」は、1期生ならではのコメント。「自主性があり、楽しんでサッカーをしていけるチームにしていきたい」と話した。走りだしたばかりの女子サッカー部だが、最終目標は関東1部リーグでの活躍と、なでしこリーグ参戦。日本一の男子に続き、女子も流通経大サッカーが躍進を起こす。

発足した女子サッカー部

選手たちは「術策がないから、自分たちで気づいて動かないといけない。歴史がないので自分たちで作っていかないといけない。でも、部室を作り上げる4年間は、人生の財産になると思う」と、1期生ならではのコメント。「自主性があり、楽しんでサッカーをしていけるチームにしていきたい」と話した。走りだしたばかりの女子サッカー部だが、最終目標は関東1部リーグでの活躍と、なでしこリーグ参戦。日本一の男子に続き、女子も流通経大サッカーが躍進を起こす。

選手たちは「術策がないから、自分たちで気づいて動かないといけない。歴史がないので自分たちで作っていかないといけない。でも、部室を作り上げる4年間は、人生の財産になると思う」と、1期生ならではのコメント。「自主性があり、楽しんでサッカーをしていけるチームにしていきたい」と話した。走りだしたばかりの女子サッカー部だが、最終目標は関東1部リーグでの活躍と、なでしこリーグ参戦。日本一の男子に続き、女子も流通経大サッカーが躍進を起こす。

「ラグビーフェスタ」の一環 女子高校生セレクション

同時開催の「ラグビーフェスタ」でも、女子選手が練習した。8月の全国高校合同チーム大会（コベルコ杯）に出場する関東代表の第1回「RAGUBI女子高校生セレクション」が行われた。龍ケ崎GRACE主催のクリニックに参加した約引選手（勝田高校3年）は「ラグビーの面白さは、他のスポーツと違ってさまざまなポジションがあり、誰でも1番を目指せるところ」と話し「ゴール脇のPWの選手を見てほしい」と続けた。

アジアチャンピオンシップで日本代表としても活躍した寺内選手（流通経大3年）は「強いタックルを決めた時の爽快感や、トライを取った時のうれしさが魅力。女子ラグビーはまだまだ新しいスポーツなので他の競技からの転向者も目指せます！」と、大学入学後にバスケットボールから転向した体験を語った。

高校生女子ラグビー16人制大会「関東代表候補セレクション・マッチ」

また、まだまだ競技人口が少ない女子ラグビーは、他のスポーツをやっていた人やスポーツ経験がない人にも、活躍するチャンスがありそう。

竜KOー舞祭開催

GSC会場隣の「たつのこステージ」では、今年も竜KOー舞祭が行われた。県内外から集まった参加者のトップで選抜したのは流通経大女子ラグビー部。直後に行われた流大との春季大会に出場する23人のメンバーが、伝統の「ハカ」を披露。チーム代表の中島渉は「ハカを踊ることで、地域の方々と一体となって盛り上がることができた」と話した。

オリジナリティー大賞を受賞したのは、今年で開催となる「SAKADOWINDS」。8年半の集大成を披露したリーダーの山崎利弥さんは「今日でチームとして最後の踊りだったけれど、気持ちをひとつに楽しんで踊れた」と、受賞を喜んだ。イベントを見守った龍ケ崎市の中山一生市長は「市内だけでなく県外からの参加も増え、年々盛り上がってきた」と手ごたえを口にした。

ハカを披露する流通経大ラグビー部員

龍・流連携で市と大学が活性化

竜KOー舞祭とラグビーフェスタに今年GSCが新たに加わった「たつのこラボ」は、流通経大と竜ケ崎青年会議所の協力で運営された。大学と龍ケ崎市の間で締結されている「龍・流連携」の一環。これは、龍ケ崎市と市内唯一の大学である流通経大が、教育、文化、スポーツなどさまざまな分野で連携していこうというものだ。

これまでも多くの連携事業が行われている。たとえば、流通経大スポーツ健康科学部の学生が授業の一環として「スポーツリーダー派遣」という形で市内の小中学校に行き、体育授業のサポートや競技のイベントの運営を手伝っている。

この活動も、同学部でスポーツマネジメントを学ぶ研究ゼミの学生が、取材から出発まで全指導。市長や大学関係者にもインタビュー。龍ケ崎市と流通経大のコラボにより実績をもり立てていくことを目指した。また、日々の活動記録は、「龍ゼミFacebook」でも発信している。

が、さらに小学生を対象にさまざまなスポーツを指導している。近年は女子競技の新体験だけでなく、陸上やラグビー、運動教室でも女子が増えているなど、女子スポーツが元気だ。新体操や柔道と教室では高いレベルのクラスに所属する女子も多くて、この地域の女子スポーツが盛り上がっているのが分かる。

◆流通経済大学　1965年（昭40）開学で、今年が創立50周年。現在5学部8学科5大学院研究科を擁し、学生数は約9350人。3万7000人を超える卒業生は、ビジネス界はもとより、公務員、教員、プロスポーツ界など多方面で活躍している。近年は、昨年度大学選手権優勝のサッカー部や関東大学リーグ総3度優勝のラグビー部などが活動も注目される。龍ケ崎市120、新松戸キャンパスは千葉県松戸市新松戸3の2の1。野尻俊明学長。問い合わせは入試センター☎0120・2297・141。